

大原社会問題研究所五十年史

IV 東京移転より終戦まで〔一九三七～四五年〕

大原孫三郎氏の死去

一九四三年 昭和一八年 一九四三年一月一八日、研究所の創設者であり、長期にわたり、ばく大な資金を提供して所の活動を援けた大原孫三郎氏が死去された。享年六四歳。

一九四三年度中の「統計学古典選集」刊行はつぎの二巻である。第九巻レキシス著久留間訳『自然科学と社会科学』、『人間社会に於ける大量現象の理論に就て』、第八巻ドロービッシュ著森戸訳『道徳統計と人間の意思自由』、シュモラー著大内訳『人口統計及び道徳統計の結果に就いて』。また単行本としては、大内兵衛著『フィリッピン・マライ貨幣史』が刊行された。さらに権田保之助氏の『本邦映画教育の理論的並に実践的発達の研究』が刊行された。これは文部省科学研究奨励金の交附をうけて行われた研究の成果である。

本年五月より三宅晴輝氏が嘱託となったことは前述したが、二月には黒田俊平氏が、五月には永田利雄氏(一九三九年入所)が退所し、また宇佐美みよ氏が入所した。

この年、研究所の所蔵する図書資料の一部を日本農業研究所(地方統計書その他)、世界経済調査会(Commercial and financial chronicle.Analist.)に売却した。

一二月一四日の委員会(出席高野、森戸、久留間、権田、大内氏)で、次年度事業計画と予算案(五万五、〇〇〇円)を決定した。

一九四四年 昭和一九年 一九四四年二月二四日開催された委員会で役員改選の結果、森戸、高野、久留間三氏が重任となり、また監事には林桂二郎氏に代って義済会理事野口信二氏が就任した。

本年度の主要事業は、「統計学古典選集」第一〇巻マイヤ著高野訳『社会生活に於ける合法則性』と、研究所編高野、森戸、大内、権田著『決戦下の社会諸科学』の刊行である。

本年大林宗嗣委員が死亡した。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

[研究活動・刊行物](#) [OISR.ORG全文検索](#)

[法政大学大原社会問題研究所\(http://oisr.org\)](http://oisr.org)